

＜新たな文化施設の整備に関する基本構想 目次（案）＞

はじめに

I. 基本構想の策定にあたって

1-1.基本構想策定の位置づけ

→基本方針及び有識者会議での議論を踏まえた構想の位置づけ

1-2.これまでの検討状況

→これまでの検討経緯と「ホール等文化施設のあり方に関する基本方針」の概要

II. 新たな文化施設を取り巻く環境

2-1.文化施設の検討にあたって求められる視点

→国・県等の文化振興政策の動き

→市の上位計画・関連計画

→市の公共施設マネジメントの方針

2-2.鳥取市内の文化施設の現状・ニーズと課題

1. 対象施設(*)の現状 (*)市民会館、文化センター・ホール、福祉文化会館

→対象施設の基礎情報、施設の課題

→市内の他施設（県施設）の基礎情報

2. 対象施設の利用状況

→利用状況・使われ方の分析内容

3. 市民ニーズ

→要望、アンケート結果など

4. 現在の文化施設の課題のとりまとめ

→市民等の活動への対応面、機能面、性能面

2-3.新たな文化施設の必要性

III. 新たな文化施設の基本的な考え方

3-1.基本理念

→理念・コンセプト

3-2.基本方針（基本的な役割）

例)

(1. 市民の文化活動の醸成・支援の場)

(2. あらゆる市民が文化芸術に触れることのできる場)

(3. あらゆる市民に開かれた空間と交流の場)

(4. 賑わいを生み出す拠点) …

IV. 新たな文化施設に必要な機能と考え方

4-1. 施設機能

→各機能の考え方（①ホール機能、②練習機能、③展示機能、④交流機能、⑤賑わい機能）

4-2. 施設整備における配慮すべき事項

→多目的での利用、柔軟で可動性の高い空間、民間等の賑わい機能との複合化などによる相乗効果の発現や親近感の醸成、採光や開放感に優れたアトリウム空間など

4-3. 施設規模

→※立地にもよるので記載の仕方については要調整（各機能の規模は 4-1 で明示することを想定）

※本基本構想で「立地」について言及するか、「他の施設との棲み分けの考え方」についてどこまで（どのように）明示するかは要調整

V. 管理運営の考え方

5-1. 管理運営の基本的な考え方

- 利用に関する考え方
- 他施設との連携による満足度の向上
- 民間ノウハウ・知見の活用
- 市民の積極的な関わり方の可能性

5-2. 事業手法について

- 手法の種類・特徴の整理

5-3. 運営組織

- 市民が主体となって関われる運営の可能性、是非など

VI. 今後の進め方

6-1. 今後のスケジュールなど

- スケジュールと検討すべき事項、課題など

資料編

- ・市内のホール等文化施設の概況
- ・WS、ウェブアンケート結果概要

資料 3 - 2

コンセプトの検討について

特にご議論頂きたい事項

1. 新たな文化施設のコンセプトを検討していくにあたって、ポイントとなる事項

(キーワード) にはどのようなものが想定されるか

→P3～P7：「1. コンセプト議論のためのキーワード」

※これまでの検討資料や第1回委員会での議論等からの抜粋資料

→P11以降：【参考】他の文化施設におけるコンセプト例

2. 新たな文化施設でカバーする対象、領域はどこか。また、新たな文化施設が

担うべき役割とななにか

→P8～P10：「2-1.検討の方向性について：文化芸術活動の全容と多様性」

「2-2.検討の方向性について：課題にみる打ち手の方向性」

「2-3.検討の方向性について：新たな文化施設が担う役割」

1. コンセプト議論のためのキーワード

■ 文化芸術推進基本計画（第2期）－価値創造と社会・経済の活性化－

【前文の概要】

- 文化芸術は、**人々の創造性を育み、豊かな人間性を涵養するとともに、人々の心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力のある社会を形成**する源泉。
- 我が国には、各地に魅力的な有形・無形の文化財が数多く存在し、雅楽・能楽・文楽・歌舞伎・組踊等の伝統芸能の上演が行われるなど、長い歴史を通じて地道な努力により今日まで受け継がれてきた誇るべき価値を有する。
- 現代の美術・音楽・演劇・舞踊等の芸術、映画・マンガ・アニメーション・ゲームといったメディア芸術、和食・日本酒等の食文化を含む生活文化、建築・ファッションなどは、世代を問わず人々の心を捉え、デジタル技術を芸術活動に活用するデジタル芸術というべき試みも多く生まれつつあり、我が国の**文化芸術の幅の広さ**、奥深さ、質の高さを示している。
- 新型コロナの感染拡大が、人々の身体的な接触を妨げ、心理的な距離も生じさせるなど多くの人々に行動変容を迫る困難にあつて、**文化芸術は、人々に安らぎ、勇気、希望を与えるという本質的価値**が改めて認識され、その灯を消さぬよう次世代への継承の努力が継続。
- また、文化芸術は、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等との緊密な連携の下、デジタル化等の技術革新を取り入れながら、**創造的な社会・経済活動の源泉として新たな価値や収益**を生み、それが本質的価値の向上のために再投資される好循環を通じて、我が国の発展に寄与。
- 国際的にも多様性、包摂性、持続可能性をキーワードに、地球規模の課題の解決に向けた動きが活発化する中、**人々のウェルビーイングの向上を図るためにも、文化芸術が果たすべき役割が増大**。

■ 劇場、音楽堂等の活性化に関する法律

【概要】

我が国の劇場や音楽堂、文化会館、文化ホール等（以下「劇場、音楽堂等」という。）に係る現状や課題を踏まえ、文化芸術振興基本法の基本理念にのっとり、劇場、音楽堂等の活性化を図ることにより、我が国の実演芸術の水準の向上等を通じて**実演芸術の振興**を図り、もって**心豊かな国民生活及び活力ある地域社会の実現**等に寄与する。

《現状》

- 我が国における劇場、音楽堂等としての機能を有している施設の多くは、文化会館や文化ホールといった文化施設であり、また多目的に利用される場合が多い。
- これら文化施設における文化芸術活動は、多くの場合は、貸館公演が中心となっている。

《主な課題》

- 文化施設の**劇場、音楽堂等としての機能が十分に発揮**されていない。
- 実演芸術団体の活動拠点が大都市圏に集中しており、相対的に地方では**多彩な実演芸術に触れる機会**が少ない

■ 第1回 新たな文化施設の整備に関する有識者会議

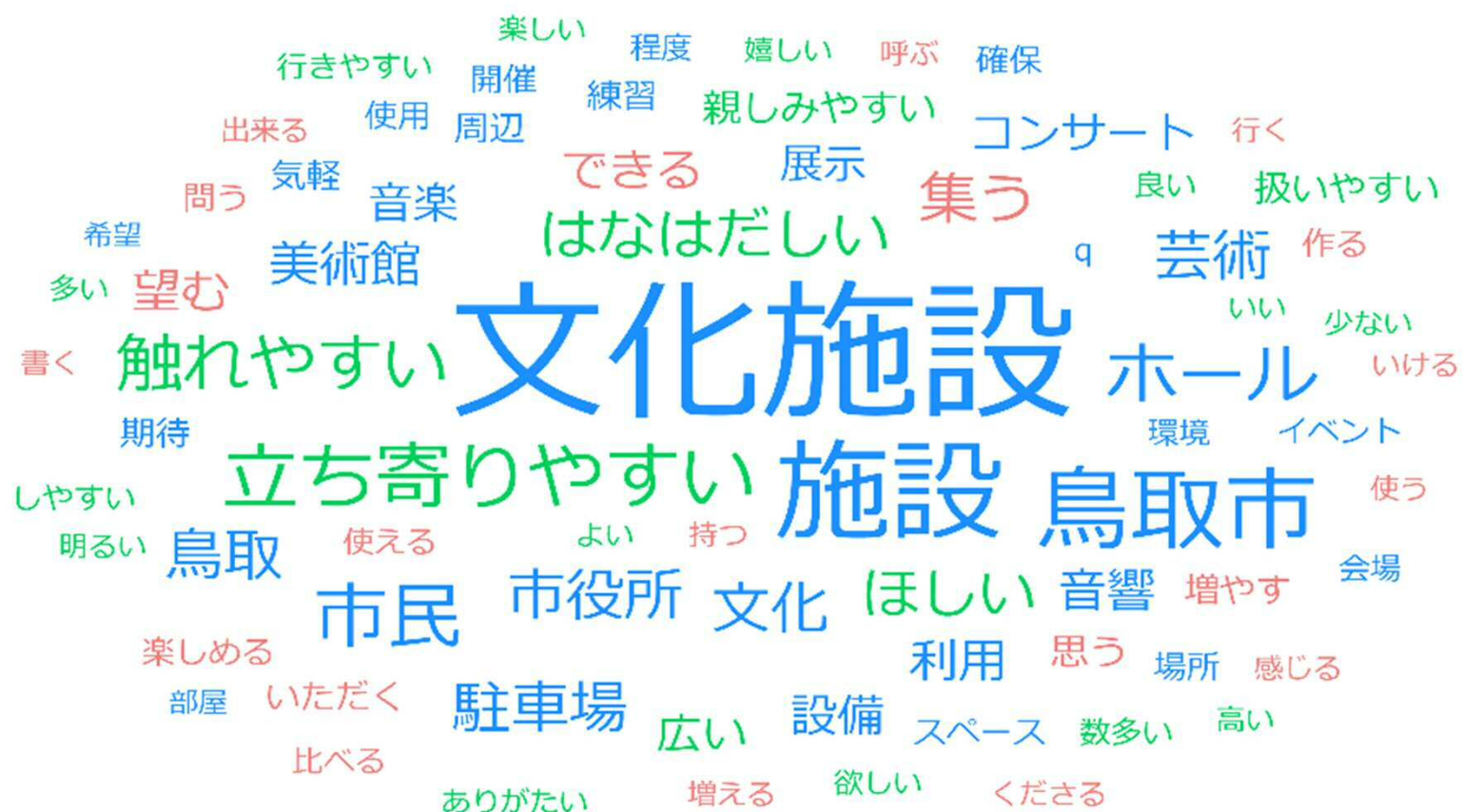
【委員の皆様から頂いた〈理想の文化施設〉に関するご意見】

※第1回新たな文化施設の整備に関する有識者会議議事録より、施設の在り方に関わる意見をキーワードとして抽出（一部語尾等を調整）

- **人の幸福にかかわること、癒しを得る、生きていく活力になるような体験**が自主的にできる施設
- 音楽や美術・演劇の分野で、**毎日のように何か活動ができる場所**
- **日常的に**市民が利用できる施設
- 子どもが文化芸術に触れる機会を提供できる施設
- 様々な人が集う、考える場所をつくるには、指針をもって進めていく人が必要
- ものづくりワークショップ等、**一から創造する体験の場所**
- **「ここにきたら何か体験ができる」**という場所
- 県内の伝統工芸や伝統芸能など、地域で繋げていく芸術の拠点

■ ホール等文化施設のあり方に関する基本方針策定時のアンケート結果（Q3-1）

- 以下は、「**今後、鳥取市の文化施設に期待することをご記入ください。**」という設問に対する回答（記述式）を、テキストマイニングした結果
- 「立ち寄りやすい」「触れやすい」「いける」「親しみやすい」「集う」「楽しい」「明るい」など、施設、機能・活動を想定される用語も多く見受けられる



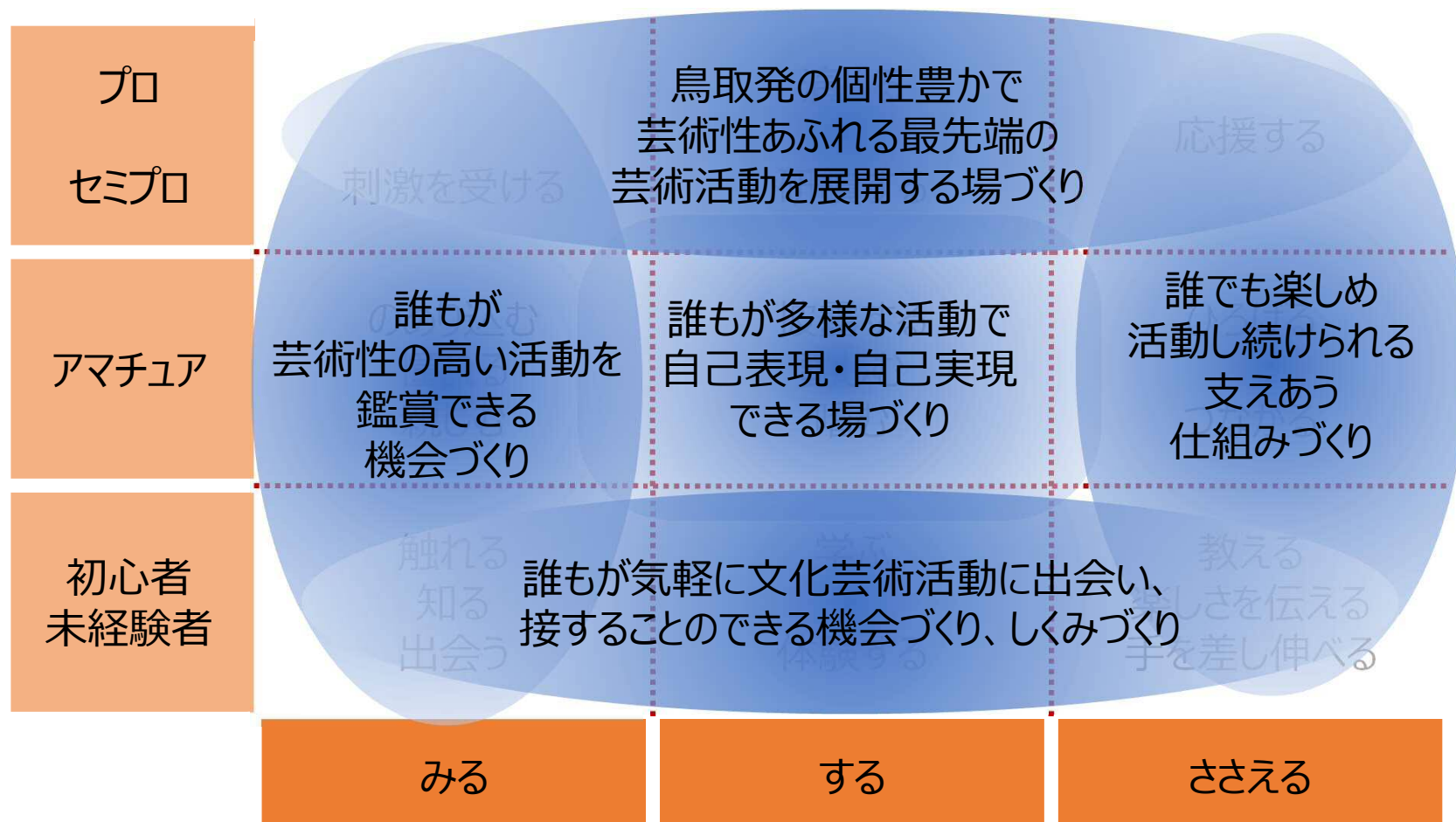
2-1. 検討の方向性について：文化芸術活動の全容と多様性

- 市民一人一人の関心度、経験値、熟達度に応じて、多様な文化芸術活動が存在
- それぞれの活動は尊重されるものであり、相互に作用するもの
- 様々な活動を通してそれぞれの関心度や経験値、熟達度が成熟変容していくことが個々人の自己形成や自己表現、自己実現に貢献

プロ		演じる	
セミプロ	刺激を受ける	研鑽する	応援する
アマチュア	のめり込む 憧れる 親しむ	披露する 勤しむ 嗜む	ひろげる つながる
初心者 未経験者	触れる 知る 出会う	学ぶ 体験する	教える 楽しさを伝える 手を差し伸べる
	みる	する	ささえる

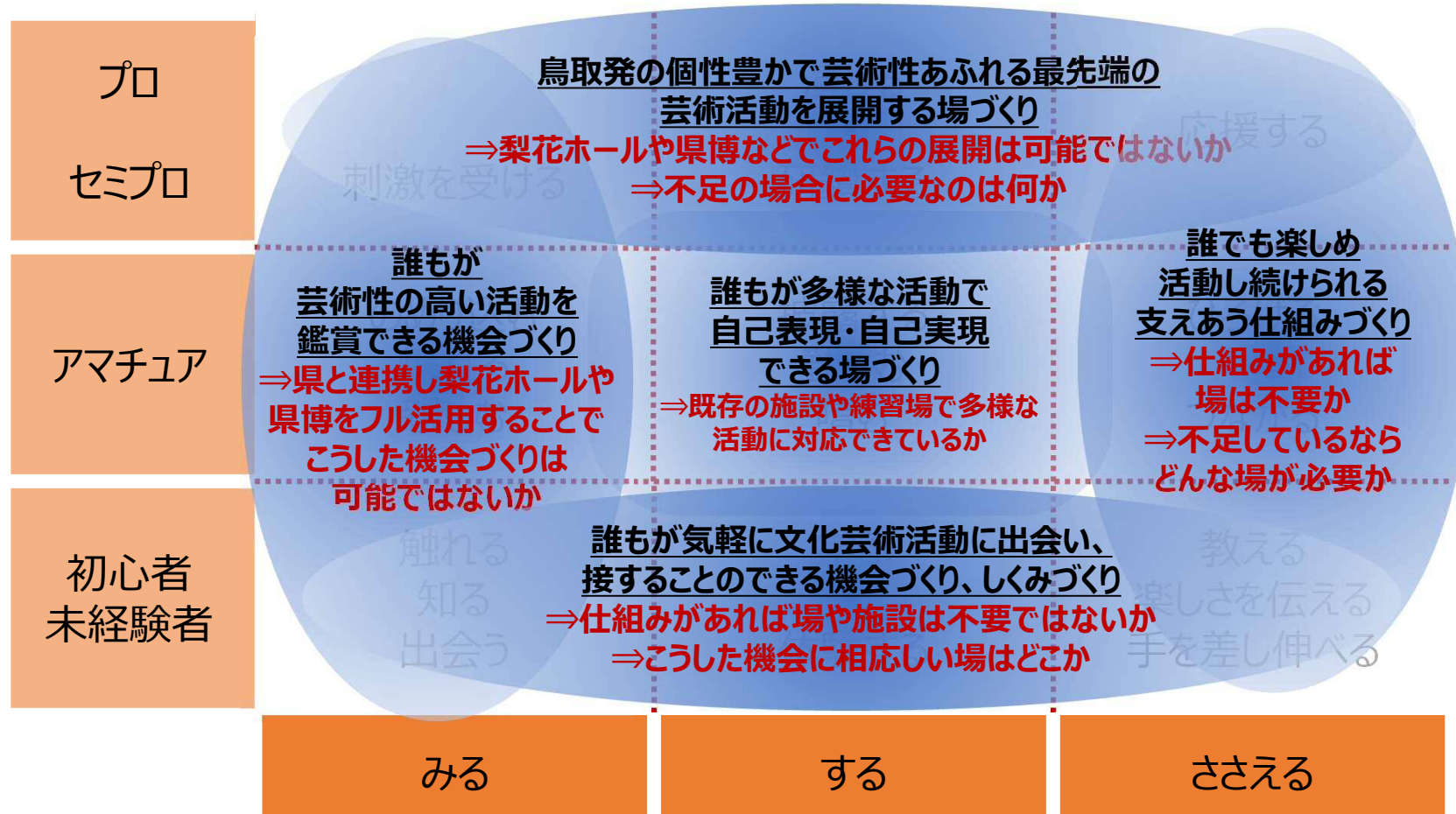
2-2.検討の方向性について：課題にみる打ち手の方向性

- 整理した課題を踏まえると、市民一人一人の自己形成・自己表現・自己実現に貢献する文化芸術活動を充実させるには、以下のような方策が求められるのではないか
- これらの方策のうち、必要のないもの、あるいは劣後してよいものはあるか
- 反対にこれら以外にもっと必要な方策はあるか



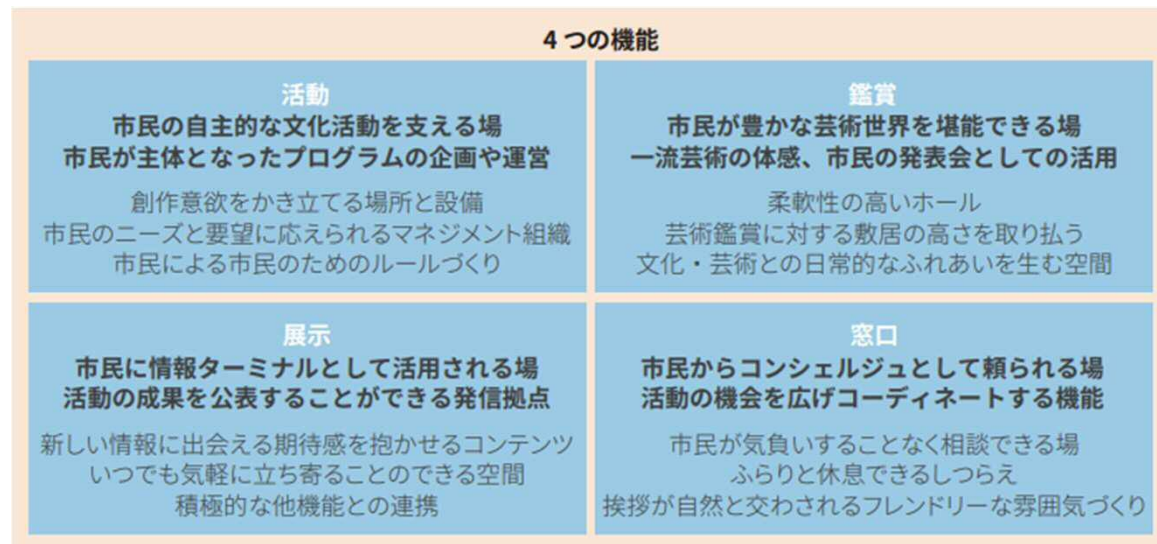
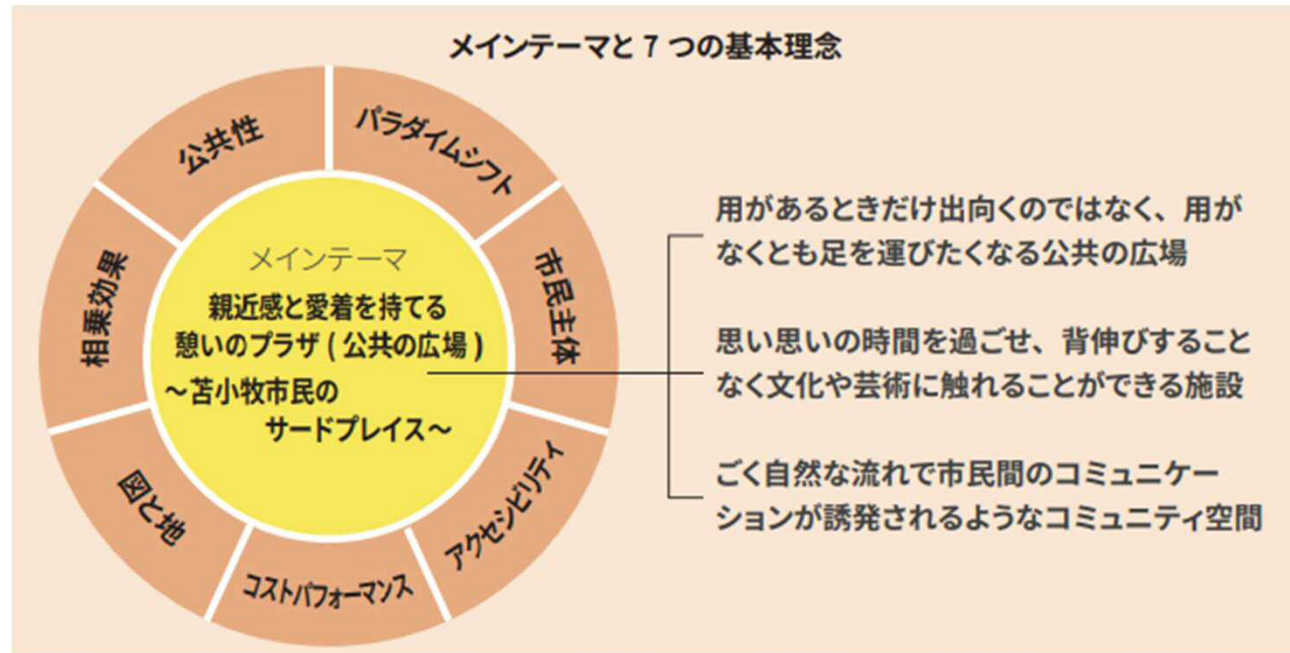
2-3. 検討の方向性について：新たな文化施設が担う役割

- 既存の施設などで対応できている点、できていない点を考慮した場合、新たな文化施設が担うべき役割は何か？どこに軸足を置くべきか？
- 全てを新たな文化施設が担うべきであるのか？
- 施設ではなく、仕組みがあれば充足できる部分はあるか？



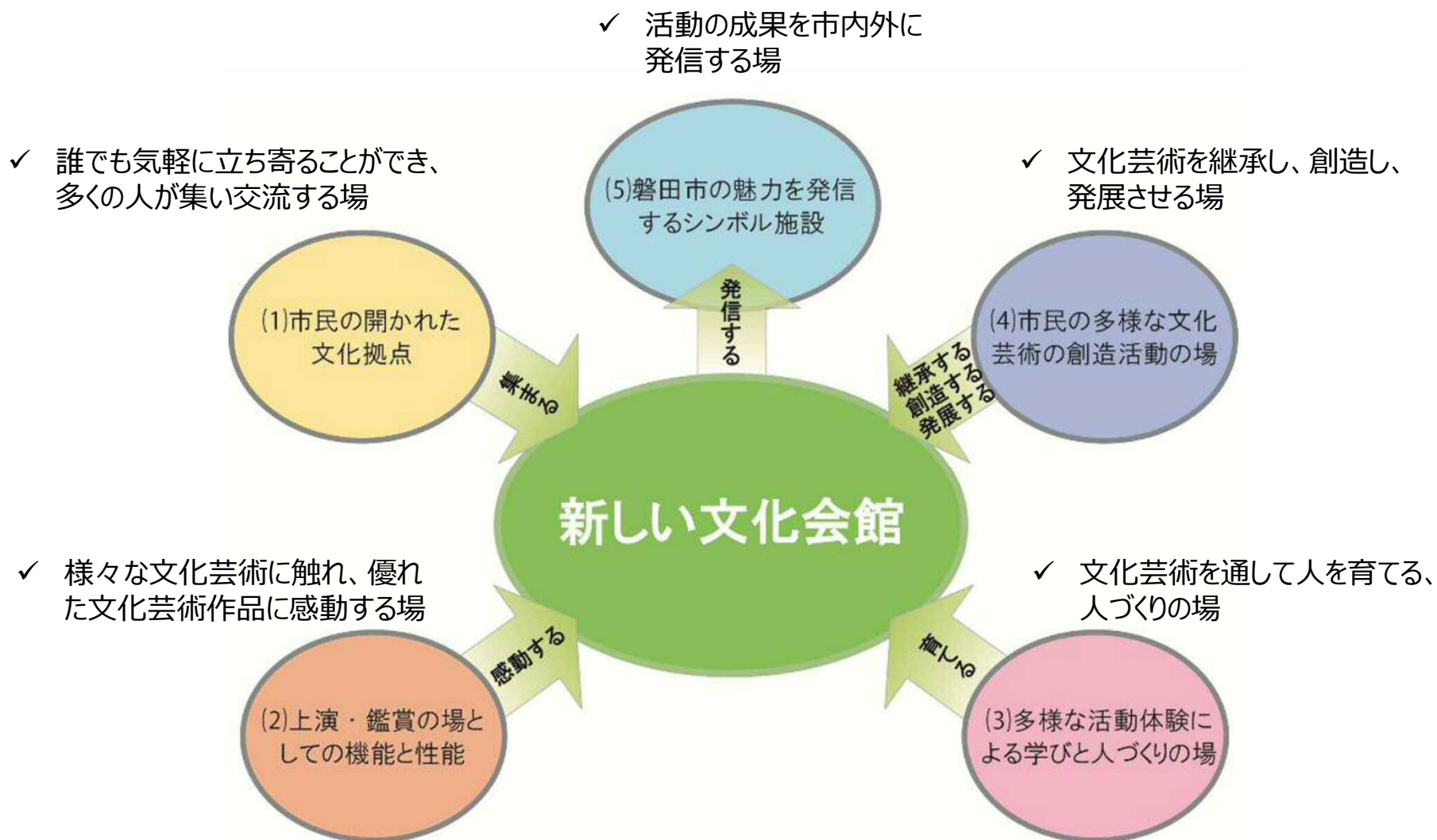
【参考】他の文化施設におけるコンセプト例

（仮称）苫小牧市民ホール建設基本構想（北海道苫小牧市 平成28年3月）



※図は同基本計画より引用

(仮称) 磐田市文化会館基本構想 (静岡県磐田市 平成28年6月)



※図は同基本計画より引用

出典：磐田市HP：

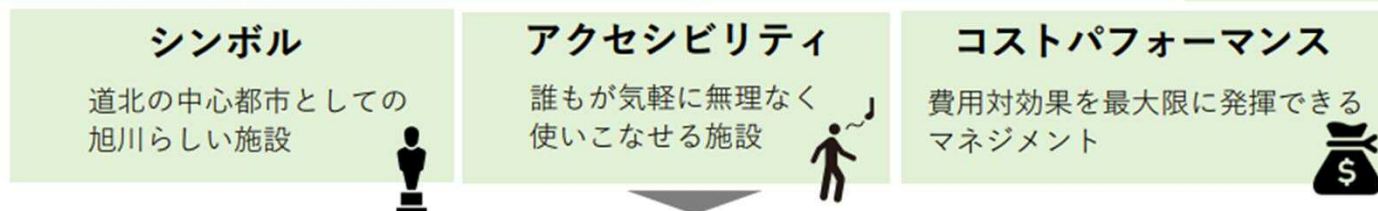
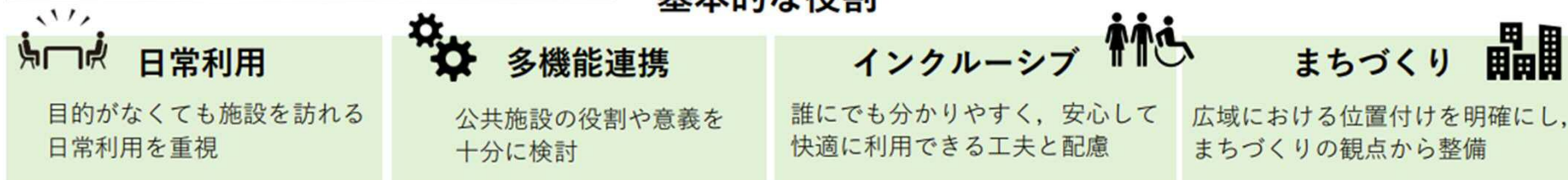
https://www.city.iwata.shizuoka.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/001/659/bunkakaikankihonkeikaku.pdf 12

旭川市民文化会館整備基本構想（北海道旭川市 令和6年3月）

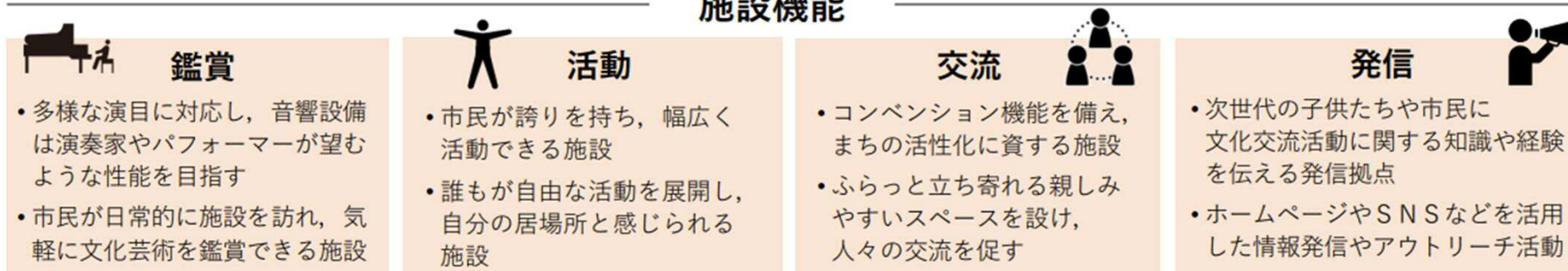
基本理念

次世代へつなげる文化交流活動の拠点 ～ 市民の誇りと愛着を育む道北のランドマーク ～

基本的な役割



施設機能



新しい文化会館の整備に関する基本構想（長野県飯田市 令和6年3月）

【基本理念】

みんなが集い、創り、伝える、感動の飯田ひろば

新しい文化会館は、市民の皆さんが舞台芸術で心が満たされる鑑賞の機会を提供します。そこでは、伝統芸能や人形劇など飯田ならではの文化を発展させ、さらに新たな舞台芸術を創造し、人材育成をも担う施設機能を備えることを目指します。そして、魅力にあふれた「飯田ひろば」を目指し、舞台芸術の振興だけにとどまらず、地域を担う人材を発掘・育成し、文化力の高いまちをつくり、地域発展の活力を生み出すことへとつなげていきます。



宮城県民会館整備基本構想（宮城県 令和2年3月）

【基本理念】

■ アート×エンタテインメント×テクノロジー

- 東北最高峰の文化芸術拠点として様々な芸術体験を展開する
- 空間、演者・観客、テクノロジーの相互作用による、新しいエンタテインメントの発信に寄与する

■ 人材育成×活動支援×地域連携

- 文化施設人材育成拠点として県内文化力のボトムアップを目指す
- 県内文化芸術団体・文化施設などと連携し、県民が等しく文化芸術を創造・発信・享受・活用できる拠点を創出する

【基本方針】

ホール	方針1：	東北最大規模の大型総合エンタテインメント拠点
		県民が上質な作品に触れる機会の創出
機能	方針2：	最先端の芸術発信・クリエイティブ拠点
		演劇、音楽、舞踊、美術、あらゆる芸術分の共存と共振
空間・共用スペース	方針3：	県内文化施設人材育成中核拠点
		県民の活動支援拠点、社会課題解決の場
空間・共用スペース	方針4：	新たなコミュニティ拠点
		刺激的なパブリック空間

福知山市新文化ホール基本構想（福知山市 令和4年）

【基本理念】

人をつなぐ、活動をつなぐ、時をつなぐ ～新たな福知山市の魅力を築く文化振興の拠点～

福知山市における文化芸術、歴史文化、その他文化的な価値を有するあらゆる「文化」の振興を推進する拠点として、福知山市の未来を見据え、次世代を担う子どもたちをはじめ市民の夢や希望の実現をめざします。

【基本的な役割】

- ① **鑑賞・体験**：「知る・見る・感じる」機会の充実から新たな活動を「つくり・つなぐ」文化振興の拠点
- ② **人材育成**：次世代に活動を「つなぐ」文化振興・文化活動の担い手の育成
- ③ **交流**：市民の憩いの場の創出による、出会いや交流の促進
- ④ **創造**：福知山市の地域資源を活かした新たな魅力の創造
- ⑤ **安心・安全**：「幸せを生きる」安心・安全なまちづくりへの寄与